

活動計画5つのポイント

1 テーマは『情報・人材・連携』です！

この計画は地域福祉保健計画を具現化する計画として検討してきました。各種実態調査や地域をつなぐ交流会、作業部会などでの検討の結果、「情報・人材・連携」というテーマがきまり、「人や情報をどのように集め、つなぎあうか」についての様々な解決策を出し合いました。

2 1,300人で作った計画です！

平成17年3月から平成19年3月の2年間で81回の会議や地域をつなぐ交流会などを開催し、約1,300人の活動者が知恵を絞り、声を集め、思いを固めて作り上げた計画です。

この計画をより実行可能なものにするために、なるべく多くの活動者に関わってもらおうことを目指しました。また、多くの活動者と出会い・交流することでつながりが生まれました。そのつながりは計画の成果の1つとなっています。

3 それぞれが実践していくことが大切です！

計画は策定しましたが、実践しなければ意味がありません。策定に係わった人や団体が中心となってそれぞれにできることからはじめていくことが重要です。そのために活動計画推進委員会を作り、周知や啓発を行っていきます。

4 まずは5つのテイクオフ事業からはじめます！

この計画は区内の活動者それぞれが取り組む計画ですが、事務局として係わってきた区社協がまず取り組む次の5つを「テイクオフ事業」と定め実行していきます。

★情報をとりまとめたものをつくる

利用者を適切なサービスにつなげるため、ボランティア募集情報や各団体の活動内容、施設の情報が各種サービス情報などがとりまとめられたものを既存の資料を活かして作り、様々な場面で活用します。

★地域に人や情報が集まる場所をつくる

地域の人の居場所や情報拠点、活動拠点をつくるため、空き家や空き店舗などを利用して誰もが気軽に集まることのできる場所をつくります。

★ふり返しシートの作成とふり返りの仕組みづくり

各活動団体・組織が日々成長していくためには、活動や組織運営についてふり返しを行い、次に活かしていく必要があります。そのために専用シートを作成し、ふり返しを活かしていく仕組みをつくります。

★地域の中で孤立している人への情報提供について検討する

地域の中で孤立しがちな高齢者や障害者、子育て中の親などに対して必要な情報を誰がどのようにして届けるかについて検討します。特に既存のふれあい訪問活動の対象者拡大なども関連づけて検討します。

★中間支援組織としての機能強化

地域活動を活性化するためには人や情報をつなぎ、様々な支援を行う中間支援組織が必要です。区内においては区社協が中間支援組織の1つとしての役割を担い、機能を高めていきます。

5 しっかり評価をしていきます！

計画を実行していく中で、実情と合わない部分も出てくると思います。目標を達成するために継続的に評価し、計画自体を見直していく必要があります。そのために活動計画推進委員会の中で評価の体制づくりを行います。